

原 著

學童結核ノ研究(第9報)

沼津市學童檢診成績ニ就イテ

(昭和18年8月10日受領)

静岡県沼津保健所：

渡 部 秋 雄

内 容 目 次

第1章 緒言	第1項 概観の成績
第2章 沼津市ノ概況	第2項 各校別「ツ」反應陽性率
第1節 地勢及ビ人文地理	第3項 年齢別、性別「ツ」反應陽性率
第2節 結核死亡率ノ統計的考察	第4項 家業別「ツ」反應陽性率
第3章 検査資料竝ビ検査方法	第5項 胸部X線検査成績
第1項 検査資料	第5章 總括竝ビ結論
第2項 検査方法	引用文獻
第4章 検査成績	

第1章 緒 言

余ハ、本研究第1~8報ニ於テ、沼津市ヲ中心トシテ、近傍農山漁村11村ノ學童結核檢診ヲ施行シ各成績ト、各村ノ自然的環境、人文地理

學的、社會經濟學的の諸條件トヲ比較検討シテ、其社會衛生學的の知見ヲ報告シタガ、茲ニ沼津市學童檢診成績ニ就キ卑見ヲ述ベル。

第2章 沼津市ノ概況

第1節 地勢及ビ人文

沼津市ハ、静岡県ノ東南、駿河灣ニ臨ム東海道ノ要衝ニ當リ、東徑138°52′、北緯35°06′ノ位置ニアル。

東ハ香貫山、徳倉山ヲ隔テテ大平村(第1報)及ビ清水村ニ接シ、東南ハ靜浦村(第6報)ニ、東北大岡村ニ接續スル。北ハ金岡村ニ對シ、西南一帯駿河灣ニ臨ミ、曲浦長汀ノ連ル所、老松鬱

蒼タル千本松原ノ景勝アリ、西方ハ片濱村ニ隣ス。

狩野川ハ伊豆ノ奥溪流ヲ合流シ來ツテ市ノ中央ヲ南下シテ海ニ注ギ、其河口ハ良港トシテ發達シ伊豆地方トノ舟運ノ中心デ物資ノ集散地デアル。

土地平坦、氣候溫和デアリ、北、愛鷹山ヲ隔テ

テ靈峰富士ヲ仰ギ、東ニ箱根、天城ノ連峰ヲ臨ム天與ノ景勝ヲ以テ、夙ニ遊覽地トシテ又、避暑、避寒地トシテ世ニ知ラレテキル。

面積 13.617 km²、廣袤東西 4.0364 km、南北 5.563 km デアル。

人口 53,165 人(昭和 15 年、國勢調査)戸數 9,216 戸デ、其職業別ニ主ナルモノヲ舉ゲレバ、商業

2,863 戸(31%)、工業 1,946 戸(21%)、公務自由業 1,083 戸(12%)、農業 647 戸(7%)、水産業 442 戸(5%) デアル。

學區ハ 5 學區ニ分タレ、全市學童ハ之ヲ第 1~第 5 國民學校ニ夫々收容スルガ、高等科ヲ設置スルノハ第 4 國民學校ノミデ、從ツテ高等科兒童ハ全學區ノモノガ該校へ通學スル。

第 2 節 結核死亡ノ統計の考察

昭和 6 年以降 10 年間ノ結核死亡統計ヲ整理考察(第 1 表)スルニ、年次ニ若干ノ徑庭ハ認メラレルガ、人口 1 萬對死亡率 10 年平均、肺結核 12.63、其他ノ結核 5.44、全結核 17.86 デ、都市結核死亡率トシテ寧ろ低率デアリ、既ニ報告シタ農山村中ノアル村ヨリモ低イ。

由是、沼津市ニ於ケル結核侵襲度ハ少イモノト推定シ得ル。由來、本市ハ保健地トシテ結核患

者ノ靜養ニ來ルモノ少ナカラズ、又海水浴ニ遊覽ニ都會人士ノ來遊スルモノ多ク結核ノ蔓延ハ一部ノ人々ニ恐怖サレテキタモノデアルガ之等ノ豫期ニ反シテ少ナイモノデアルコトヲ知ルノデアル。

結核死亡ニ關スル詳細ハ拙著「沼津市ニ於ケル氣象要素ト死亡トノ關係」ニ於テ論ズルノ玆ニハ省略スル。

第 1 表 沼津市結核死亡統計

昭和 年度	肺 結 核				其他ノ結核		總結核 死 亡	人口 1 萬 對死亡率	推定人口
	肺結核	肋膜炎	計	人口 1 萬 對死亡率	計	人口 1 萬 對死亡率			
6	41	17	58	13.19	24	5.46	82	18.68	43,959
7	47	11	58	13.19	38	8.65	96	21.84	
8	46	19	65	14.79	24	5.46	89	20.24	
9	49	17	66	15.01	27	6.14	93	21.17	
10	48	15	63	12.64	37	7.42	100	20.07	49,824
11	78	17	95	19.95	32	6.45	127	25.48	
12	50	14	64	12.85	23	4.61	87	17.52	
13	28	5	33	6.52	21	4.60	54	10.88	
14	43	8	51	10.23	19	3.81	70	10.06	
15	36	5	41	7.71	15	2.82	56	10.34	53,165
計	466	123	604	12.63	260	5.44	854	17.86	47,8121

備考 推定人口ハ國勢調査人口トス

第 3 章 検査資料並ビニ検査方法

第 1 節 検査資料

沼津市第 1 國民學校兒童 1,807 名(在籍兒童 1,893 名ニ對スル受檢率 95.46%)。

同 第 2 國民學校兒童 1,517 名(在籍兒童 1,613 名ニ對スル受檢率 94.04%)。

同 第 4 國民學校兒童 2,594 名(在籍兒童 2,752 名ニ對スル受檢率 94.25%)。

以上合計 5,918 名ヲ檢診ノ對象トシタ。

第 2 節 検査方法

前論文ト同様ナルヲ以テ省略スル。

第 4 章 検査成績

第 1 節 結核感染率

第 1 項 概観的成績

全被檢兒童 5,918 名中「ツ」反應陽性兒童 1,249 名、陽性率 $21.16 \pm 0.530\%$ デアル。

本邦各地ニ於ケル學童ノ「ツ」反應ニヨル結核感染率ノ調査ハ、伊東⁽¹⁾ガ明治 43 年 (1910 年) 福岡市學童ニ就イテ施行シタノヲ嚆矢トシテ、爾來之ニ踵グ業績ハ枚擧ニ遑ナイガ、其中都市學童ニ關スルモノヲ引用スレバ第 2 表ノ如クデアル。

沼津市學童ノ「ツ」反應陽性率ヲ、之等諸家ノ成績ト比較スルニ、全國的ニ觀テ低率デアル。ガ河西⁽³⁵⁾ノ仙臺市ニ於ケル 19.6~22.0%、余⁽³⁷⁾ノ水戸市ニ於ケル 20.8~22.0%、澁谷、菅野⁽⁴⁰⁾ノ仙臺市ニ於ケル 19.5%、菅原⁽³³⁾ノ長崎市ニ於ケル 23.9%、曾我等⁽⁶⁰⁾、名古屋市ニ於ケル 23.3% 中村、藤岡⁽⁶⁴⁾、岡崎市ニ於ケル 23.5% 等ハ概ネ

伯仲スル。

要之、既ニ述ベタルガ如ク沼津市ノ結核死亡率ハ都市トシテ遙カニ低率デアリ、從ツテ結核侵襲度モ低イデアラウト推定サレルノデアルガ、學童結核感染率ニ關スル限り、全國ノ都市ノ夫レニ比シテ低ク、明カニ之ヲ立證シテキル。遊覽地トシテ、又避暑、避寒ノ保養地トシテ四季都會人士ノ往來多ク、結核ニヨル汚染ハ憂慮サレテキタコトデアルガ、學童ニ於テハ未ダ斯ル慘禍ヲ蒙ツテキナイト認メラレル。

余ハサキニ第 5 報ニ於テ、學童年齡ニ於ケル結核感染ハ社會的因子ヨリモ多ク、家庭的因子ニ依ルモノデアルコトヲ論ジタガ、沼津市ニ於ケル學童結核感染率ガ、環境の條件存スルニモ拘ハラズ比較的低率デアル事實ヨリ再ビ之ヲ主張スルモノデアル。

第 2 表 本邦各都市學童結核感染率

報告者	被檢人員	年齢	検査対象	陽性率	検査方法	文献
伊東 ⁽¹⁾	442	13—14	福岡市博多校尋六	48.6	P 25%液使用	兒科雜誌 127 號 (明治 43)
酒井 ⁽²⁾	592	7—14	大阪市中之島校	56.1	P 原液使用	同上 135 號 (明治 45)
坂井、齋藤 ⁽³⁾	1831	5—14	京都市小學校及幼稚園	77.3	同上	同上 159 號 (大正 2)
草野 ⁽⁴⁾	85	7—14	岡山市	57.9	P 25%液使用	岡山醫學會誌 264 號 (明治 45)
鎮目、 ⁽⁵⁾ 村松、池田	691		東京市	25.3	P	
門田 ⁽⁶⁾	424		八幡市	43.4	同上	兒科雜誌 306 號 (大正 14)
丸岡 ⁽⁷⁾	3500		同上	26.1	同上	九大醫報 1—1 (昭 2)
鄭 ⁽⁸⁾	601	7—16	京城市公立普通校	41.6	M 1:1000 0.1cc 48St. 10mm 以上(+)	兒科雜誌 330 號 (昭 2)
高田 ⁽⁹⁾	739	7—14	富山市	30.7	M	學校衛生 8—5 (昭 4)
宇留野 ⁽¹⁰⁾	964	7—15	廣島市食困ナル學童	45.1	M 蒸留水 400倍 0.04cc 24St. 7mm 以上(+)	診斷と治療 16—9 (昭 4)

有馬、松田、 菊池 ⁽¹¹⁾	807	7—16	札幌市	42.0	P. 25% 50%液使用 M. 1:5000 0.2cc	結核 8—2 (昭 5)
平澤、高橋 ⁽¹²⁾	1129	8—13	東京市	72.1	P.	兒科雜誌 426 號 (昭 6)
橋積 ⁽¹³⁾	742	7—14	那覇市	43.9	M. 1:1000 0.1cc 48St. 10mm 以上(+)	同上 361 號 (昭 6)
野村 ⁽¹⁴⁾	4917	7—14	東京市	36.2	M. 1:1000 0.1cc	學校衛生 20—7 (昭和 8)
岩崎 ⁽¹⁵⁾	1405	7—12	大阪市	43.1	M. 1:5000 0.5cc 48St. 7mm 以上(+)	結核 9—10 (昭 6)
佐藤、木村 ⁽¹⁶⁾	235	7—16	鹿岡市	26.9		東北醫會誌 15—5 (昭 8)
岩淵 ⁽¹⁷⁾	2383	7—14	東京市(荒川區)	85.9	M. 1:2000 0.1cc 48St. 5mm 以上(+)	日本醫事週報 1927 (昭 8)
寺尾、新井、 竹中 ⁽¹⁸⁾	1133	6—15	東京市大塚健康 相談所來訪者	49.6	M.	結核 12—5 (昭 9)
新井 ⁽¹⁹⁾	249	7—15	東京市(山手非 衛生地區虛弱兒)	47.7	M. 1:2000 0.1cc 48St. 5mm 以上(+)	同上 11—11 (昭 8)
高橋、上林、 古屋 ⁽²⁰⁾	640	8—13	東京市(深川區)	76.9		日醫大誌 5—11 (昭 9)
吉見、松田 ⁽²¹⁾	587	6—14	金澤市學童及幼 稚園兒	41.4		十全會誌 38—11 (昭 9)
西堀、賀川 ⁽²²⁾	494	7—15	大連市(虛弱兒 童)	31.8		滿洲醫會誌 18—3 (昭 9)
栗山 ⁽²³⁾	統計綜合		全 國	39.1		診斷治療增刊 (昭和 8)
新井 ⁽²⁴⁾	3040	7—15	東京市	42.1		日本學校衛生 20
李、鄭 ⁽²⁵⁾	646	12—13	京城市	34.5		朝鮮醫學會誌 24—8 (昭 10)
寺尾 ⁽²⁶⁾	14,821	7—15	東京市	33.6		
田川 ⁽²⁷⁾	247	7—15	長崎市(入院兒童)	35.2		結核 14—10 (昭和 11)
小田、大黒、 李 ⁽²⁸⁾	4180	7—16	臺灣都市	37.7		臺灣醫會誌 35—1
金井、清水 ⁽²⁹⁾	3816	7—16	札幌市(虛弱兒童)	33.7		結核 15—5 (昭 12)
同 上 ⁽³⁰⁾	558	7—14	札幌市	30.8	M. 1:1000 0.1cc 48St. 10mm 以上(+)	同 上
廣木 ⁽³¹⁾	3004	8—16	奉天(滿人)	68.3	M. 1:1000 0.1cc 48St. 8mm 以上(+)	東京醫事新誌 3009 (昭 8)
小原 ⁽³²⁾	1091	7—14	長岡市	36.3		兒科雜誌 428 號 (昭 11)
菅原、四熊、 大城 ⁽³³⁾	978	7—14	長崎市	23.9		同上 429 號 (昭 11)
藤井 ⁽³⁴⁾	209	10	東京市(虛弱兒童)	35.9	M. 1:2000 0.1cc 6mm 以上(+)	結核 15—4 (昭 12)
河西 ⁽³⁵⁾		7—14	仙臺市(3 小學校)	22.0 21.5 19.6	M. 1:1000 0.1cc 24St.	
井出、渡部 ⁽³⁶⁾	784	7—14	水戸市	17.3	M. 1:2000 0.1cc 48St. 7mm 以上(+)	結核 14—1 (昭 11)
同上 ⁽³⁷⁾	675	7—12	同 上	20.8	同 上	同 上
渡部 ⁽³⁸⁾	438	7—14	同 上	22.3	同 上	同上 15—3 (昭 12)

山形他 5 氏 ⁽³⁹⁾	5645	7—17	石巻市(兒童生徒)	20.3	M 1:1000 0.1cc 24—48St. 10mm ² 以上(+)	東北醫會誌 29—5 (昭 16)
澁谷、菅野 ⁽⁴¹⁾		7—14	仙臺市	19.5	同 上	
石川 ⁽⁴¹⁾		14—15	宇都宮市	30.9	M 1:2000 0.1cc 48St. 5mm 以上(+)	結核 17—8 (昭 14)
野津、井上 ⁽⁴²⁾		6—16	東京市(京橋區)	38.1		同上 16—5 (昭 13)
小池他 ⁽⁴³⁾			東京市(杉並區)	36.4	M 1:2000 1:1000 1:100	同上 17— (昭 14)
栗林、菅原 ⁽⁴⁴⁾			東京市廣尾健康相談所來訪者	36.9		兒科診療 1—8
高橋 ⁽⁴⁵⁾		7—14	名古屋市	26.5	M 1:1000 0.1cc 7mm 以上(+)	結核 12—3 (昭 9)
有馬、安達、曾根 ⁽⁴⁶⁾		7—14	石川縣市部	30.7		結核 17—5 (昭 14)
今村 ⁽⁴⁷⁾		7—13	大阪市	45.8		結核 18—6 (昭 15)
坂本、大賀、山野 ⁽⁴⁸⁾			大阪市	40.5	M 1:2000 0.5cc 48St. 7mm 以上(+)	結核 17— (昭 14)
永江 ⁽⁴⁹⁾			大牟田市	30.1	P 原液 24St.	日本學校衛生 26—11 (昭 14)
岡田 ⁽⁵⁰⁾		12—14	帶廣市	29.3		結核 17— (昭 14)
清水、鈴木 ⁽⁵¹⁾		12—14	函館市 (18 校尋六)	38.0		北海道醫會誌 16—11 (昭 14)
清水 ⁽⁵²⁾		12—14	函館健康相談所來訪者	78.8		日本學校衛生 26—6 (昭 14)
同上 ⁽⁵³⁾		12—14	函館市 (尋六健康兒童)	47.5		同 上
木村他 ⁽⁵⁴⁾	12,637	12—14	札幌市他 6 市 (72 校尋六)	32.2	M 1:1000 0.1cc 24—48St. 10mm 以上(+)	結核ノ臨牀 1—5 (昭 13)
竹廣 ⁽⁵⁵⁾	1533	7—14	吳 市	25.0	貼付反應 48St.	日結 1—9 (昭 15)
清水 ⁽⁵⁶⁾	2712	12—15	函館市	37.6	M 1:2000 0.1cc 48St. 10mm 以上(+)	日結 1—2 (昭 15)
同上 ⁽⁵⁷⁾	3137	12—15	同 上	38.0	同 上	同 上
同上 ⁽⁵⁸⁾	3434	12—15	同 上	36.8	同 上	日結 2—10 (昭 16)
高木、長野 ⁽⁵⁹⁾	3523	7—14	名古屋市	25.4	同 上	日結 2—3 (昭 16)
曾我、山田、伊藤、永坂 ⁽⁶⁰⁾	94,005	7—14	同 上	23.3		日結 3—2 (昭 17)
花栗 ⁽⁶¹⁾	810	7—14	吳 市	24.8	貼付反應	日結 2—10 (昭 16)
關 ⁽⁶²⁾	8317		京都市 (尋 5, 6 年)	36.2	M 1:2000 0.05cc 48St. 5mm 以上(+)	結核電報 5 (昭 16)
佐川他 ⁽⁶³⁾	1254		京都市 (國民校 1, 2 年)	26.2		結核研究 1—1 (昭 18)
同	851		同 上 (同 3, 4 年)	33.6		同
同	983		同 上 (同 5, 6 年)	37.9		同
中村、藤岡 ⁽⁶⁴⁾	11,341	7—14	岡崎市	23.5		厚生科學 3—1 (昭 17)

第2項 各校別「ツ」反應陽性率

「ツ」反應陽性率ヲ各學校別ニ觀ルニ(第3表)第4國民學校(以下單ニ第4校ト略稱ス、其他モ亦同ジ) 22.82±0.824%ハ最高率デ、第2校 19.04±0.923%ハ最低率デアル。

然ルニ、第1、第2兩校ハ初等科ノミデアルガ、第4校ハ高等科兒童ヲ含ムタメ各校ノ年齢構成ハ同一テナイ。仍テ、初等科兒童ノミニ就イテ「ツ」反應陽性率ヲ比較スルニ、第2校 20.63±1.038%ハ最高率トナリ、第1校 19.04±0.923%ハ殆ド之ト伯仲スルガ、第4校 15.79±2.603%ハ、前2校ニ比較シテ遙カニ低イコトニナル。

此ノ原因ニツキ、各校ノ學區ノ地理的條件、兒童ノ家業構成等ヨリ之ヲ考察スルニ、第4校ノ高等科ハ全市兒童ヲ收容スルモ、初等科ハ、狩野川ヲ隔テテ市ノ東部ニ位シ、大正12年市制施行前ハ楊原村ト稱シタ新市域デ人口密度最モ

小デアリ人家モ密集セズ、見ルベキ商店街モナイ、地域ノ學童ヲ收容シ第1、第2校ノ學區ハ、市ノ中心地ヲ占メ、人家稀比シ、商店街ヲ含ミ人口密度大デアル。

更ニ、第4校高等科學童ヲ出身校別ニ「ツ」反應陽性率ヲ觀ルニ(第4表)、第1校 42.13%、第2校 41.35%デ著シク高率ヲ示シ、第3校 25.66%、第4校 27.79%ハ遙カニ低ク、第5校 18.45%ハ最低率デアル。

第1、2兩校ハ市ノ中心地ニ學區ヲ有スルコトハ前述ノ如ク、初等科學童「ツ」反應陽性率ニ於テモ高率ヲ示シタガ、高等科ニ於テモ高率デアル。

第3校ハ、舊楊原村ニアリ沼津市ノ東郊外ニ當リ、又第5校ハ沼津市ノ東北隅大岡村ニ接シ、第3校學區ト共ニ人口密度最モ粗デアルガ、共ニ「ツ」陽性率ハ低イ。

以上之ヲ要スルニ、被檢3國民校初等科學童ノ

第3表 各校別學年別「ツ」反應陽性率

	第1校		第2校		第4校		計	
	檢査人員	陽性人員(%)	檢査人員	陽性人員(%)	檢査人員	陽性人員(%)	檢査人員	陽性人員(%±m)
初等科1年	304	38(12.50)	260	41(15.77)	212	24(11.32)	776	103(13.27±1.17)
.. 2年	294	51(17.35)	263	47(17.87)	233	32(13.73)	790	130(16.34±1.316)
.. 3年	289	48(16.61)	246	40(16.26)	229	24(12.66)	764	117(15.31±1.303)
.. 4年	285	55(19.30)	213	52(24.41)	244	38(15.57)	742	145(19.54±1.451)
.. 5年	333	79(23.72)	278	64(23.00)	256	50(19.53)	867	193(22.26±1.412)
.. 6年	302	73(24.17)	257	69(26.85)	244	51(20.90)	803	193(24.03±1.491)
高等科1年					642	179(27.88)	642	179(27.88±1.769)
.. 2年					534	189(35.39)	534	189(35.39±2.09)
初等科平均	1807	344(19.04)	1517	313(20.63)	1418	224(15.79)	4742	881(18.58±0.564)
高等科平均					1176	368(31.29)	1176	368(31.29±1.352)
全校平均	1807	344(19.04)	1517	313(20.63)	2594	592(22.82)	5918	1249(21.16±0.530)

第4表 高等科學童出身校別「ツ」反應陽性率

出身學校	被檢人員	陽性人員	陽性率(%±m)
第1校	235	99	42.13±3.221
第2校	213	88	41.35±3.374
第3校	300	77	25.66±2.521
第4校	216	60	27.79±3.047
第5校	206	38	18.45±2.704
市外	6	6	100
計	1176	368	31.29±1.352

「ツ」反應陽性率ニ於テ、學區ノ地理的條件ニヨル差異ヲ明確ニ知ルノミナラズ、高等科學童ニ就イテモ、出身5校別通學々區ノ地理的、環境的條件ニヨル差異ノ存スルコトハ首肯シ得ルノデアル。

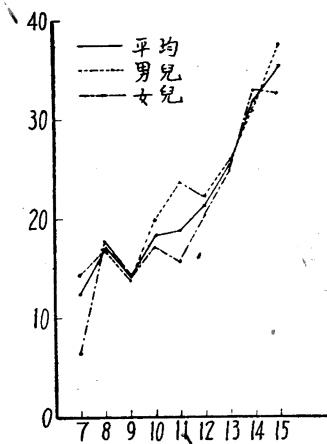
第3項 年齢別、性別「ツ」反應陽性率

年齢別ニ「ツ」反應陽性率ヲ觀ルニ(第5表)各校共7年ヲ最低トシテ、1、2例外アリ必ズシモ年

第 5 表 性別、年齢別「ツ」反應陽性率

年齢	♂		♀		計	
	被檢人員	陽性人員(陽性率%)	被檢人員	陽性人員(陽性率%)	被檢人員	陽性人員(陽性率%)
7	224	32(14.29±2.339)	201	21(10.45±2.157)	425	53(12.47±1.602)
8	373	63(16.86±1.838)	328	58(17.68±2.106)	705	121(17.16±1.419)
9	346	47(13.58±1.841)	407	59(14.50±1.764)	753	106(14.08±1.467)
10	373	73(19.57±2.103)	397	68(17.13±1.890)	770	141(18.31±1.393)
11	363	86(23.69±2.231)	351	55(15.67±1.857)	754	141(18.70±1.419)
12	403	89(22.08±2.066)	383	78(20.37±2.058)	786	167(21.25±1.416)
13	433	112(25.87±2.104)	372	91(24.46±2.234)	805	203(25.22±1.531)
14	349	109(31.23±2.476)	261	86(32.95±2.909)	610	195(31.97±1.889)
15	200	75(37.50±3.413)	153	50(32.68±3.791)	353	125(35.41±2.544)
計	3064	686(22.39±0.753)	2853	566(19.84±0.746)	5918	1252(21.16±0.530)

第 1 圖



トハ明確ニ異ナル處ガアル。

之ヲ全校平均ニ就イテ觀レバ(第1圖)、9年ニ稍々低イノミデ、年齢ニ比例シテ上昇シ、所謂都市型ヲ呈スル。

「ツ」反應陽性率ハ、13、14、15年ニ於テ飛躍的、上昇ヲ認メルガ、此原因ハ明カデナイ。

性別ニ各年齢毎ニ、男兒ハ女兒ニ優レ、又女兒ハ男兒ヲ凌駕スルガ統計學的ニハ

$M^1 \sim M^2 / \sqrt{m_1^2 + m_2^2} = 2.00$ デ有意ナ差デハナイ。

第 4 項 家業別「ツ」反應陽性率

家庭ノ職業別ニ學童「ツ」反應陽性率(第6表)ヲ觀ルニ、各校共ニ商業ハ最高率ヲ示シ、工業之ニ亞ギ、反之、農業、漁業ハ低率デアル。

商業ニ最モ高率デ、農業ニ最低率デアルコトハ余⁽⁸⁵⁾ノ静岡縣下男女中等學校生徒ノ檢診成績ニ

齡ニ比例セズト雖モ殆ド正規的ノ上昇ノ傾向ヲ示シ、第1—8報ノ農山漁村ノ年齢的傾向曲線

第 6 表 兒童家業別「ツ」反應陽性率

校別	第 1 校	-	第 3 校	計
商業	711(39.40)	422(29.14)	626(24.13)	1779(30.06)
工業	382(21.14)	408(26.90)	637(24.55)	1427(24.11)
農業	8(0.44)	39(2.57)	244(9.42)	291(4.92)
交通業	166(9.19)	97(6.39)	176(6.78)	439(7.42)
公務自由業	369(20.39)	368(24.27)	506(19.51)	1243(21.00)
漁業	0	4(0.26)	92(3.55)	96(1.62)
其他ノ有業	52(2.88)	38(2.50)	151(5.82)	241(4.07)
無職	119(6.58)	121(7.97)	162(6.24)	402(6.80)
計	1807(100%)	1517(100%)	2594(100%)	5918(100%)

備考 ()内ハ%ヲ示ス

モ認メラレル傾向デ、商業ノ如ク地域のニモ家屋密集シ、他トノ交渉接觸ノ多イモノニ高率デアリ、農業ノ如ク地域のニ人口密度ノ小ナル土地ニ低率ナルコトハ諸家ノ業績ト一致スルトコロデアル。

要之、學童結核感染ハ從來豫想サレタル如ク社會的因子ニ負フコト少ナイトハ云ヘ環境群ノ影響ハ否定シ得ナイ。

第5項 胸部X線學的検査成績

各校共、「ツ」反應陽性及ビ疑陽性兒童ヲ撰定シ合計1304名ニ對シ、螢光像撮影法ニヨリ胸部X線寫眞ヲ撮影シ、疑ハシキ所見ヲ認メタルモノハ「四ツ切フィルム」ヲ以テ大撮影ヲ行ヒ、其診斷ヲ確定シタ。

X線所見ハ第7表ノ如クデ、活動性結核乃至其ノ悞アリトナスベキ新鮮像ヲ認メタモノハ51例デ、撮影人員ニ對シ3.13%、被檢全員ニ對シテハ8.61%デアル。

之等病的所見ヲ認メタモノノ中、胸内腺腫脹32例(62.75%)ハ斷然多ク、新鮮初感染浸潤及ビ

初期變化群11例(21.56%)之ニ亞ギ、肺尖肺野、肺門浸潤8例(15.69%)デアル。

之ヲ從來余ノ報告シタ各農山漁村ノ夫レト比較スルニ、敢テ高率ヲ示サズ、都市學童ノ結核性病變ハ農山漁村學童ノ結核ニ比シ差異ヲ認メナイデアル。

第7表 X線所見ノ分類

X線所見		校 別			計
		第1校	第2校	第4校	
所見ヲ認メザルモノ		371	301	563	1235(95.49%)
新 鮮 像	初 感 染 浸 潤	1	2	0	3
	新 鮮 初 期 變 化 群	4	1	3	8
	胸 内 腺 腫 脹	13	8	11	32
	肺 門 周 圍 浸 潤	1	0	0	1
	肺 尖 浸 潤	1	0	0	1
陳 舊 像	肺 野 浸 潤	2	0	4	6
	灰 化 原 發 竈	4	4	3	11
	肺野ノ散在スル灰化竈	2	0	0	2
	葉 間 毛 髮 像	1	0	0	1
肋 膜 肥 厚、癒 著		3	0	1	4
計		403	316	585	1304(100%)

第5章 總括並ビニ結論

余ハ、沼津市ニ於ケル5國民學校中、第1、第2、第4、ノ3國民學校學童5918名ニ就イテ、「ツ」反應、胸部X線撮影ヲ主トスル檢診ヲ施行シテ次ノ成績ヲ得タ。

1. 沼津市最近10年平均結核死亡率ハ、人口1萬對、肺結核12.63、其他ノ結核5.44、全結核17.86デ、其死亡率ハ都市トシテ低率デアリ、沼津市ノ結核侵襲度ハ、遊覽地、保養地トシテハ豫期ニ反シテ低イモノト推定サレル。
2. 學童「ツ」反應陽性率ハ全校平均21.16±0.530%デ全國都市ノ成績ニ比較シテ低率デアル。
3. 學校別ニ「ツ」反應陽性率ヲ觀ルニ、市内ノ中心地ノ兒童ヲ收容スル第1、第2校ハ高率デ、新市域ノ學童ヲ收容スル第4校ハ遙カニ之ヨリモ低ク、學童結核感染率ハ、通學區ノ地理的、社會經濟的條件ト密接ノ關係アルヲ認メル。

4. 「ツ」反應陽性率ハ、年齢ノ長ズルニ比例シテ正規の上昇ヲ示シ、所謂都會型デアル。
5. 「ツ」反應陽性率ハ、性別ニハ有意ナ差異ヲ認メラレナイ。
6. 「ツ」反應陽性率ト家庭ノ職業トノ關係ヲ觀ルニ、商業、工業ニ最高率デ、農業ハ最低率デアル、由是、學童結核感染ト環境トノ密接ナル關係アルコトヲ認メル。
7. 「ツ」反應陽性及ビ疑陽性兒童1304名ノX線検査ノ結果、活動性結核又ハ其ノ悞アルモノ51例デ被檢全員ノ8.61%デアル。
8. X線病的所見中、胸内腺腫脹(62.75%)ハ最モ多ク、之ニ次グハ初期浸潤、初期變化群(21.56%)肺浸潤(15.69%)デアル。
尚ホ要養護兒童ニ對シテハ學校並ビニ家庭ニ連絡シ今後ノ經過ヲ觀察シツツアリ、「ツ」陰性兒童中、第1、第4校ノ全員ニ對シテハB.C.G接

種ヲ施行シタ。

閱ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表ス。

稿ヲ終ルニ臨ミ、恩師鯉沼教授ノ御指導、御校

(昭和18年7月7日脱稿)

引用文獻

1)—64) 表中ニ記載セルヲ以テ省略。

65) 渡部, 多留, 名古屋醫學會雜誌. 第58卷. 第1號. 昭和18年. 66) 渡部, 多留, 結核. 第21卷. 第12號. (掲載豫定) 67) 渡部, 結核. 第21卷. 第5號. 昭和18年. 68) 渡部, 結核. 第21卷. 第7號. 昭和18年. 69) 渡部, 名古屋醫會

誌. 第57卷. 第2號. 昭和18年. 70) 渡部, 名古屋醫會誌. 第57卷. 第3號. 昭和18年. 71) 渡部, 名古屋醫會誌. 第57卷. 第6號. 昭和18年. 72) 渡部, 名古屋醫會誌. 第58卷. 第3號. (發表豫定). 73) 渡部, 名古屋醫會誌. (發表豫定). 74) 渡部, 名古屋醫會誌. (發表豫定).